

G-7 ソビエトの〈家政〉Ⅶ  
北海道教育大学 豊村洋子

目的 前回は、1959年教育大改革における〈家政〉の導入の前後から数年間の学校における〈家政〉の推移をみたが、今回は、ひき続きその後若干の改革があった1964年以降ととりあげ、合わせて現状と方向を探りたい。

方法 ソビエト刊行の新聞、雑誌、書籍等でした。

結果 59年改革においては、あまりに労働偏重に過ぎたことの反省にたつて、64年の改革の眼目は、生徒の知的水準の向上にある。その後65年、67年の若干の手なおしによって、59年教育改革当時の〈労働教育〉科（この中に〈家政〉がある）の時間配当が、いちじるしく減少している。結果として、現場からの〈労働教育〉軽視と不振と憂慮する声がおきている。また、カリキュラムにたいする批判も活発におこなわれ、対案もたされている。

〈家政〉教育は、とかく新しい細目であるため、実践面では、ややもすれば因襲的な家事・裁縫的なものに偏りがちになるが、たまたまいホリテフニズムの研究は、それらの欠点の克服に重大な役割を果たしているともみなされる。

今後の課題としては、

- ・ 〈労働教育〉不振の克服と組織
- ・ 教師養成
- ・ 職業指導の問題 …… 等が残され、互いに関連しつつ重要性をはらんでいる。